

2019年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

2020年3月31日

報告者	学科名	看護学科	職名	准教授	氏名	岡崎 愉加
研究課題	思春期の性に関する健康支援—性的同意を取り入れた性教育プログラムの開発と評価—					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	岡崎愉加	保健福祉学部看護学科・准教授	助産学・母性看護学	研究計画、データ収集と分析、性教育プログラム開発と実施、成果発表等	
	分担者	川下菜穂子	保健福祉学部看護学科・助教	助産学・母性看護学	文献収集、データ収集と分析、性教育プログラムの実施等	
研究実績の概要	<p>【目的】 本研究は、①大学生の性的同意に関する実態を明らかにすること、②明らかになった「性的同意に関する実態」を参考に、性教育プログラムを作成し、研究協力校で実施・評価することにより、性被害予防と思春期の性の健康を守り育てるための効果的な性教育への示唆を得ることを目的とする。</p> <p>【方法】 ①2019年4月～7月にA県の大学生の267人を対象に無記名自記式質問紙調査を実施した。回収237人中、有効回答229人を分析対象とした。 ②大学生への調査結果をもとに、性教育実施校の養護教諭や性教育実施協力者（助産師学生）の意見を聞きながら、性教育プログラムを開発し、令和元年9月の文化祭を利用して実施した。内容は、性被害について、性的同意、相談窓口・相談後の流れである。ポスターを使用し、クイズを入れ、生徒の表情・発言・行動を観察しながら実施した。性教育プログラムへの参加者を対象に無記名自記式質問紙調査を実施し、有効回答136人を分析対象とした。 なお、本研究①②は岡山県立大学倫理委員会の承認後に実施した。</p> <p>【結果】 ①分析対象者229人中、男子は86人(38%)、女子は143人(62%)であった。平均年齢は、男子20.6歳±1.2歳、女子19.7歳±1.2歳であった。性的同意について知らない人は、男子64%、女子70.6%であった。性的同意を求められても答えにくい人は、男子24.4%、女子44.8%であった。また、性的行為を行っても良いと考える基準に男女間で差があることが明らかになった。結果の詳細は2020年度に開催される学会等で公表予定である。</p>					

※ 次ページに続く

	<p>②分析対象者の平均年齢は 15.9±1.42 歳であった。136 人中、男子は 57 人(41.9%)、女子は 79 人(58.1%)であった。また、中学生が 22 人(16.2%)、高校生が 114 人(83.8%)であった。性教育プログラムに参加して、「悩みや疑問が解決した」71.3%、「今まで知らなかったことを知ることができた」86.8%であった。自由記載から、生徒は性的同意が大切であると感じ、性被害に関する知識を得て、性被害の予防と対処法を理解していた。一方、少数ではあるが、難しい言葉があったという感想があり、対象者の理解力に合わせた言葉選びが課題として残った。結果の詳細は 2020 年度に開催される学会等で公表予定である。</p> <p>【地域貢献への反映】</p> <p>思春期の性に関する子育て支援活動を継続している。その一環として、思春期の子育てパンフレットを作成して講演会等で配布している。①の研究成果をまとめたものを内容に追加して、パンフレットの増補改訂版を作成した。今後はこのパンフレットを用いて地域で講演を実施したり、教育や医療現場の人々に配布したりして役立てる。</p> <p>思春期の子どもを対象に性教育活動を継続している。②の研究成果より、性教育プログラムの蓄積ができ、地域における思春期の子どもの健康支援に貢献できる。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>思春期の子育て支援パンフレット（増補改訂版）</p>